

第3学年 組 音楽科 学習指導案

学校名
職・氏名 教諭・

1 日時・場所 平成 年 月 日 () : ~ : ・第1音楽室

2 題材名 リズムのおもしろさを味わおう ～ヴォイスアンサンブルを通して～
A表現 (1) 歌唱イ・ウ (3) 創作イ
〔共通事項〕リズム テクスチャ 構成 強弱 速度 音色

3 目標

- リズムの反復、変化、重なり方に関心をもち、言葉によるアンサンブル表現を工夫する学習に意欲的に取り組む。 【音楽への関心・意欲・態度】
- アンサンブルを構成する素材どうしの重なり方や強弱の働きを理解し、自らの創作意図をもち、表現を工夫する。 【音楽表現の創意工夫】
- 他のパートとの関わり方を理解し、反復、変化、重なり方などの構成や全体のまとまりに留意してアンサンブルを表現したり、つくったりするための技能を身に付ける。 【音楽表現の技能】

4 題材について

(1) 生徒について

本校は「確かな学力を身に付け、生き生きと表現できる生徒の育成」を研究テーマとして、教育活動を展開している。本学級の生徒は興味のある学習に対しては、自ら課題を追究し、最後までやり遂げることができる。しかし、基礎学力が定着していないために学習に集中できない生徒や、基本的な学習習慣が身に付いていない生徒がいるなどの課題も挙げられる。このような生徒の現状から、学習の基礎・基本の充実を図り、主体的に学ぶ力や表現する力が育つことを目標とし、日々の教育活動に取り組んでいる。

本年度の歌唱表現の学習では、歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して美しい発声、豊かな響きのある歌声で歌うことを目標に取り組んでいる。また、創作の学習では、言葉の抑揚を生かしたリズム創作や、4小節のリズム創作に取り組んだ。しかし、教えられたことを表現するという受け身の学習にすぎず、音楽の諸要素やその関わりを自ら感じ取り、理解して、自分の思いを表現するという、楽しさを感じ取るには至っていない。

(2) 題材について

教材曲「おうまがとおる！」は、小林一茶の俳句を基に作られた三声からなる、言葉によるリズムアンサンブル曲である。全21小節の中に、拡大されたリズムや、反復、変化などの要素が用いられ、演奏することで楽しみながら、それらのリズムの効果を実感することができる作品となっている。この曲を通して、「曲の仕組み」や「リズムの重ね方」について理解を深めさせるとともに、仲間と心をつなげて歌いあげることの成就感を味わわせたい。

また、グループによる創作活動では、教材曲を参考にして、アンサンブルの素材となる俳句の言葉の抑揚を感じ取り、音高とリズムで表現する。そして、リズムの重ね方や曲の構成を工夫して、三声のヴォイスアンサンブルの創作に取り組み、自らの思いや意図をもって表現を工夫した音楽づくりを体験させたい。

(3) 指導について

今回の創作活動では、素材となる俳句を各グループで選ばせ、全体の構成を工夫したヴォイスアンサンブルの創作に取り組ませたい。生徒の音楽経験によって個人差があるため、リズムパターンを示したヒントカードを活用したり、記譜の仕方を工夫したりすることにより、個に応じた支援を積極的に行いたい。

また、グループ学習における意見交換を通して、友達が考えた表現の意図を確かめ合う場面を設定し、生徒が試行錯誤しながらよりよい表現を工夫する過程を大切にしたいと考えている。

〔創作活動の素材となる俳句〕
菜の花や 月は東に 日は西に
やせがえる まけるな一茶 これにあり
古池や 蛙飛び込む 水の音
与謝蕪村
小林一茶
松尾芭蕉

5 教材

- 「おうまがとおる！」（小林一茶の俳句より／滝口亮介 作曲）

6 題材の評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
題材の評価規準	○ 言葉の特徴、音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに関心を持ち、それらを生かしてアンサンブル表現を工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。	○ 音楽を形づくっている要素であるリズムや強弱を知覚し、音楽で表現したいイメージを持ち、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫し、どのようにアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。	○ 言葉の特徴や反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。

7 指導と評価の計画（全4時間）

次	◎ねらい ○学習活動	評価の観点			◇評価規準【評価方法】	共通事項
		関	創	技		
第一次 （1時間）	◎ リズムの反復、変化、重なり方のおもしろさを味わおう。 ○ 本題材の学習内容に見通しをもつ。 ○ 「おうまがとおる！」のアンサンブルに取り組む。 ○ アンサンブルの全体像をイメージし、それを目指して表現の方法を工夫する。	①		①	◇ 言葉のリズムや抑揚に興味を持ち、意欲的にアンサンブルに取り組もうとしている。【関①】【観察】 ◇ 読譜力や、拍に合わせたスリズムの表現など、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能を身に付けて表現している。【技①】【観察】	リズム リ듬 音色 強弱
第二次 （2時間）	◎ アンサンブルを構成する素材どうしの重なり方や強弱の働きを理解し、アンサンブルの創作に取り組む。 ○ 交互唱、音の拡大、全パートのユニゾンなどの方法によりさまざまな重なり方があることを理解する。 ○ グループでヴォイスアンサンブル曲を創作する。		①	②	◇ 言葉やリズム、強弱、構成など音楽を形づくっている要素を生かしてアンサンブルをしたり、つくったりするための技能を身につけて表現している。【技②】【観察・ワークシート】 ◇ 反復、変化、対照などの構成や音の重ね方などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、それらを生かした音楽表現を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。【創①】 【観察・ワークシート】	リズム リ듬 構成 強弱
第三次 （1時間・本時）	◎ 自分たちのイメージしたアンサンブルを表現するための表現方法を工夫する。 ○ クライマックスや曲の終わりをどのように表現するか、自らの思いや意図をもって工夫する。 ○ 他のグループの発表を聴き、工夫できているところについての感想をもつ。		②		◇ 言葉やリズム、速度、強弱、構成など音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、自らの思いや意図をもって表現を工夫している。【創②】 【観察・ワークシート】	リズム リ듬 構成 速度 強弱 音色

8 本時の指導

(1) 目標

自分たちのイメージしたアンサンブルを創作するための表現方法を工夫させる。

(2) 本時の指導に当たって

どのようにアンサンブルをつくるかについて試行錯誤しながら思いや意図をもたせ、リズム、速度、強弱、構成、などの音楽を形づくっている要素を工夫させ、根拠のある表現に取り組ませたい。

(3) 展開

学習の流れ	形態	○指導上の留意点 ◎評価（評価方法）
1 既習曲を歌う。 ・ 「校歌」「おそすぎないうちに」	一 斉	○ 心を込めて歌うことができるように、歌詞や強弱などについて確認させる。
2 これまでの学習を振り返る。 ・ 「おうまがとおる！」 パート練習 アンサンブル ・ リズムの重ね方について	一 斉	○ ヴォイスアンサンブル特徴や面白さについて確認する。
3 本時の目標を明らかにする。		
表現方法を工夫し、アンサンブルを完成させよう。		
4 アンサンブルを創作する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">創作した音楽を通して演奏しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 全体の曲の流れを確認する。 <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">音楽表現を工夫しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 思いや意図を伝え合い、表現したいイメージをもつ。 音楽を形づくっているどの要素を変化させるか話し合い、音楽表現を工夫する。 <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">アンサンブルの練習をし、発表しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> 工夫した点について説明し、互いの演奏を聴き合う。 	グループ	○ イメージを深めさせるために、リズム素材と全体の構成を確認させる。 ○ 音楽表現を工夫するための手掛かりとして、音楽を形づくっている要素を提示する。 ○ 工夫した内容を演奏につなげるため、変化させた要素をワークシートに記入させる。 ◎ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽で表現したいイメージをもち、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（観察・ワークシート） ○ 聴く側には、発表後に感想を返させるために、自分たちの工夫した点を他のグループがどのように表現しているか意識しながら聴かせる。
5 本時を振り返りながら、教師の話聞く。	一 斉	○ 本時の授業を評価し、創作活動のまとめをする。

9 授業評価の視点

(1) 教材解釈力

ヴォイスアンサンブルの創作活動が、自らの思いや意図をもって表現を工夫する学習となったか。

(2) 授業実践力

グループ活動において、考えを深めるための教師の言葉掛けは適切であったか。